

跡地から生まれた現代美術

万田坑 芸術祭

manda pit artfes 2023

今回、荒尾市万田坑で初めての大規模な現代美術の展示会を開催します。

本年度春から万田坑にて、リサーチを行った国内外で活動、発表を行う4名の現代作家がこの場所から着想を得た作品を施設全体で展示します。

万田坑は明治35年に開坑し、三池炭鉱の主力坑として、三井の総力を挙げて整備され昭和26年まで大量の石炭を日本、ひいては世界中に供給していました。その後、坑内の水の管理坑として稼働し続け、平成9年に三池炭鉱は閉山しています。その後荒れ果てた炭鉱跡地の、歴史的重要性が新たに見つめなおされ、文化財としての価値が認められることとなり、平成27年に明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業の構成資産として、世界文化遺産に登録されています。

万田坑を表現する言葉は、炭鉱跡地、遺構、史跡、世界遺産、さまざまなものがあります。今では日本の多くの炭鉱跡地が更地、もしくは既に別の建物が建ち姿を変える中で、万田坑は当時の石炭採掘の様子が良くわかるかたちで残っています。勿論、現在炭坑マンはいませんし、施設も稼働していません。しかし、実際にこの場所を訪れると、この土地で働いていた人々の日常の気配の色濃さに圧倒されます。参加作家は、跡地でありながら、今も強く人の暮らしを伝えるこの場所を、何度も訪問し、得られた土地の持つ物語から制作を進めてきました。

本展示会「万田坑芸術祭 跡地から生まれた現代美術」は、万田坑で生まれた作品を、旧炭鉱施設全体に展示する現代美術展です。市民のための無料開放日を初日とし、地域に開かれた展示会となること、文化遺産と現代美術が結びついた際に生まれる新たな視点の可能性の提示を目指しています。

総合ディレクター・宮本華子

(来場と料金についてのお問合せ)

万田坑ステーション TEL 0968-57-9155
〒864-0001 熊本県荒尾市原万田200番地2

- 開館時間 / 9:30-17:00 (入場は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日
- 企画協力 / AIR motomoto (助成・公益財団法人野村財団)

(芸術祭についてのお問い合わせ)

荒尾市役所文化企画課 TEL 0968-63-1274

[交通アクセス]

- 国道208号線万田西交差点から東へ 県道荒尾・南関線に入り約2km、県道の左側
- JR荒尾駅から車で約10分
- 路線バス: 万田公園下車徒歩で約4~5分

NOMURA 野村財団



■関連イベント

11月の3連休期間は万田坑にて、トークイベントやワークショップなどを開催します。

11/3 (金) 文化の日

「万田坑芸術祭オープニングトーク」

- 作家 / 井上修志 牛嶋均 長野櫻子 森本凌司
- 開催時間 / 14:00 ~ 16:00 ●開催場所 / 職場
- 内容 / 展示内容について作家トーク ●参加人数 / 20名 ●予約不要 (先着順)

「ハローハロー、マンガコウ・スマイル煙突茶会」

- 作家 / オーギカナエ ●お菓子コラボレーション / ヨハネス・スペクス × マリ・ドニカ (Johannes Specks) × (Marie Donike)
- 開催時間 / 13:30 ~ 16:30 (材料が無くなり次第終了)
- 開催場所 / 汽灌場煙突 ※雨天時は炭鉱電車展示建屋にて開催予定
- 内容 / 約20席分のスマイルになれるお茶会を開催します。
- 予約不要 ●参加費 / 500円

11/4・5 (土・日)

「編んで結んで解く」

- 作家 / 森本凌司 ●開催時間 / 13:00 ~ 16:00 (3時間)
- 開催場所 / 炭鉱電車展示建屋 ※強風時は万田炭鉱館予定
- 内容 / アソニットの糸を編み、それに小物を結び、最後に解く。
(工程1) 1時間編みもの練習 (工程2) 30分編みものに結びたいものを見つける。
(工程3) 制作作業本番 (工程4) 完成したものを解く
- 参加人数 / 10名 (要予約空きがあれば当日参加可能) ●参加費 / 無料

11/12 (日) 12/17 (日)

同時開催

ギャラリーツアー

- 担当 / 宮本華子 ●時間 / 13:00 ~ 15:00
- 開催場所 / 万田坑・AIR motomoto
- 集合場所 / 万田坑ステーション前
- 内容 / 展示内容について、担当ディレクターがご案内いたします

AIR motomoto 成果展を含めた展示会ツアー

- 参加人数 / 10名程度
- 予約不要 (先着順)
- ※移動の際、自家車で移動可能な方限定
- 参加費 / 無料

- 入坑料 : 大人・大学生 / 410円 (320円)、高校生 / 310円 (240円)、中学生・小学生 / 210円 (160円)、未就学児 / 無料
- ※()内は20名以上の団体料金 ※各種障がい手帳をお持ちの方は本人のみ割引あり
- ※大型バスで来場の場合は、事前にご連絡をお願いいたします。

展示会は、万田坑前の芝生広場周辺の他、万田坑の有料エリア内で開催します。尚、11月3日(金・文化の日)は無料開放日です。

万田坑芸術祭マップ



跡地から生まれた現代美術

万田坑 芸術祭

manda pit artfes 2023

artist

井上修志

INOUE shuji

牛嶋均

USHIJIMA hitoshi

長野櫻子

NAGANO sakurako

森本凌司

MORIMOTO ryoji

2023/11/3 [FRI] → 12/24 [SUN]

会場 万田坑(世界文化遺産) 主催 / 荒尾市 開館時間 / 9:30-17:00 (入場は16:30まで) 休館日 / 月曜日





井上修志
INOUE shuji



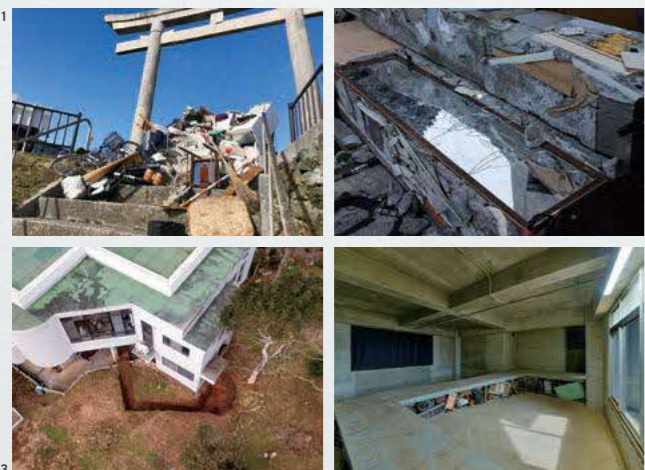
万田坑地下を通る桜町トンネルはかつて近隣住民が生活の一部として使っていた。現在、トンネルは封鎖され、通る事ができない。そこにあった多くの人が行き交う日常で人々は何を思い、何を感じていたのだろうか。当時の生活の一部であったトンネルを延長し、想像してみたい。

profile

1995年 宮城県生まれ
2021年 東京東京藝術大学大学院グローバルアートプラクティス専攻修了

主な活動

- 2021年 「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2021」(東京、TOKYO TORCH Park)
- 「SDGs×ARTs展」(東京、東京藝術大学美術館)
- 2021年 「東日本写真パネル展」(埼玉、入間市博物館)
- 2022年 「海」(宮城、雲雀野海岸)
- 2022年 「KAWAKYU ART Exhibition 2022」(和歌山、ホテル川久)
- 2023年 「一周の螺旋は円にも見える」(熊本、AIR motomoto)



1-2 《日和山の階段を新しい視点まで延長してみる》2021年 インスタレーション
3-4 《一周の螺旋は円にも見える》2023年 インスタレーション

牛嶋均
USHIJIMA hitoshi



私の両親は小さな鉄工所を営んでいて、主に滑り台とかブランコなど公園や小学校にある遊具を作っていました。工場と住居がほぼ一体で暮らしていたので鉄の切子や、なめたドリルなどがオモチャの様なものでした。万田坑を見上げていると個人的な小さな頃の記憶が、鉄の臭い・焼ける時の熱・鉄混じりの土埃などと共に空に拡散していくようです。

profile

1963年 福岡県久留米市生まれ(久留米市在住)
1983年 九州造形短期大学グラフィックデザイン科卒業

主な活動

- 2008年 「人智の研究 ver.6 遊具-武器-遊具」(島根、島根県立石見美術館)
 - 2017年 「風を待たずに一村上慧、牛嶋均、坂口恭平の実践」(熊本、熊本市現代美術館)
 - 2022年 「はじまるとき、はじまる1」(福岡、ギャラリーエウレカ)
 - 2022年 「はじまるとき、はじまる2」(北九州、ギャラリーソープ)
 - 2023年 奥能登芸術祭(石川、珠洲市)
- 主な収蔵先に、金沢21世紀美術館(石川)、霧島アートの森(鹿児島)、福岡アジア美術館(福岡)



1 《プラネター》2017年 作家蔵
2 《UMA》金属 2003年 十和田市馬事公苑 十和田市、青森県
3 《ころがるさきの玉 ころがるたまのさき》2008年 金沢21世紀美術館

長野櫻子
NAGANO sakurako
[anno lab]



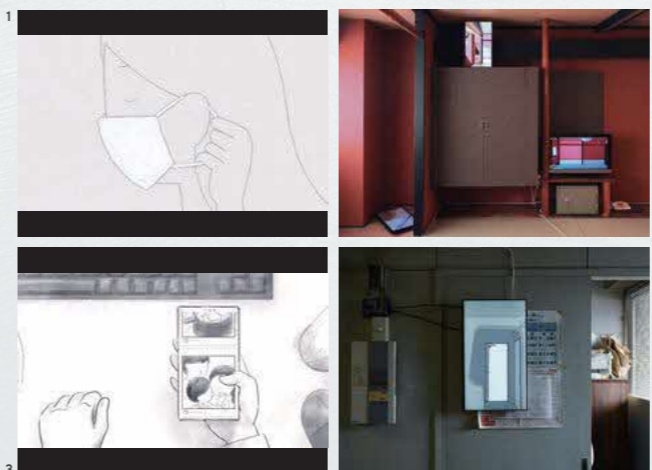
「職場」は、万田坑が日々機能するために機械のメンテナンスを行う場所だったらしい。閉山後、自然の力によって小屋組みがほとんど落下したそうだが、一度建物を解体し再利用可能なものはなるべく使用して組み上げたことで今の「職場」がある。一度壊れ、また姿を取り戻した、閉山後の「職場」。その佇まいと場所の記憶、かつて働いていた人たちを想いながら、映像インスタレーションを制作する。

profile

1989年 福岡県生まれ
2016年 広島市立大学芸術学専攻造形芸術専攻
現在、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)に在籍

主な活動

- 2016年 「新千歳空港国際アニメーション映画祭」(北海道)
- 2017年 「tricky woman 2017」(ドイツ)
- 2019年 「対馬アートファンタジア2019」(長崎、対馬アートセンター他)
- 2022年 「あなたが誰で、どんなに孤独だろうとも」(福岡、EUREKA)
- 2023年 「18回アーティスト・イン・レジデンスの成果展2022記録と表現-立ち止まり、また動き出す」(福岡、福岡アジア美術館)
- 2023年 FaN Week2023 福岡現代作家ファイル2023(福岡、Artist Cafe Fukuoka)



1 《それぞれの日々》2023年 令和4年度福岡アジア美術館AIR成果展(福岡)
2 《318号室のための6つの視点》2023年 ととの温泉美術館(慶知)
3 《あなたが誰で、どんなに孤独だろうとも》2022年 個展(福岡、EUREKA)
4 《羽島市勤労青少年ホームのための3つの視点》2019年 羽島市勤労青少年ホームを記憶し記録する一日(岐阜)

森本凌司
MORIMOTO ryoji



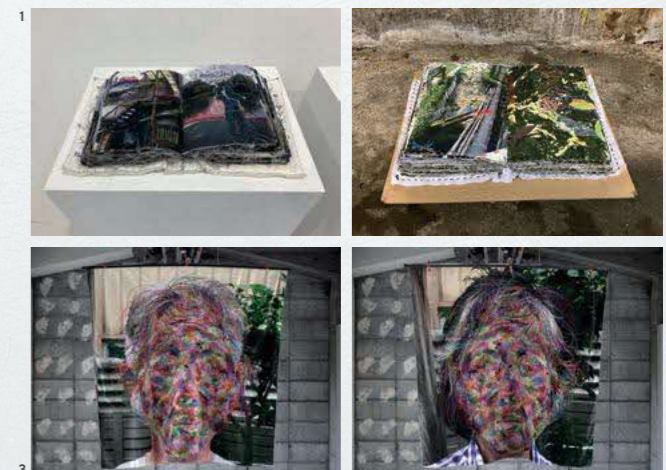
万田坑の隣には、現在使われてないアソニットという工場の建物跡がある。そこでは炭鉱事故で夫を亡くした寡婦の人たちが働いていたらしい。アソニットで拾った糸を編んで、長い紐を作った。この編んだ紐をアソニットと万田坑に通し輪状にした。

profile

1994年 高知県生まれ
2019年 Bath Spa University テキスタイルデザイン科卒業

主な活動

- 2021年 「In:Site Festival Revisited 2021」(バーミンガム大聖堂前広場、イギリス)
- 2022年 「現実47」(大分県立美術館、大分)
- 2022年 3331 ART FAIR 2022 小池一子賞受賞。
- 2023年 「向こうに、さす」(Art & Garden ねこぞ、大分)
- 2023年 「3331によって、アートは『 』に変化した」(アーツ千代田、東京)



1 《エコー/ECHO》ミクストメディア 2021年
2 《シェア/SHARE》ミクストメディア 2023年
3-4 《Suturing Distances》ミクストメディア 2022年

